

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘		
事業所名	グループホーム 都筑の丘		
所在地	(〒224-0057) 神奈川県横浜市都筑区川和町1705		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年7月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム都筑の丘は都筑区の中でもひととき、豊かな自然に恵まれた環境のなかにあります。ホームは2000坪の敷地がありコロナ禍で外出が出来なくても、2月には濃いピンクの河津桜が咲き、3月は淡い紅色の可愛いおかめ桜、4月は優美な垂れ桜でお花見をしています。露のとうは天ぷらにします。玉ねぎや芋ほりをホームの畑で楽しんでいます。庭の遊歩道や花畑を1日に何回も一人一人のペースにあわせて散歩をしています。庭の所々にベンチがあり一休みしながら歌を歌ったりお茶を飲んだりします。本物とみま違えてしまう羊の親子、ユーモラスな狸のカップル、鼻や可愛いうさぎのオブジェがいます。畑で収穫した野菜を日々の食事に取り入れています。梅、柿、みかんも豊作でした。柚子は豊作で柚子茶や柚子湯を楽しみました。コロナで外出ができなくなりましたが、四季の移ろいを日々の生活の中で感じながら入居者は豊かに元気で毎日をすごされています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年3月30日	評価機関 評価決定日	令和3年5月25日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 グループホーム都筑の丘は市営地下鉄川和町駅から徒歩10分ほどの自然豊かな環境の中にある。周辺には畑や竹林があり、天気の良い日には遠くに富士山が望める。事業所は2000坪の広い敷地に1棟は2階建ての2ユニット、もう1棟は平屋建ての1ユニットからなる建物が建っている。建物裏手には、利用者が歩きやすいように敷石を敷き詰めた遊歩道と農園があり、四季折々の花木や植栽が目を楽しませてくれる。春は桜の下のベンチでゆっくりと花見が楽しめる。</p> <p>【理念に基づいた暮らしの提供】 開所から17年、地域に根差したホームとして利用者、職員ともに理念に沿った「地域社会の一員」として生活や活動を行っている。今年度は新型コロナの影響でホーム内での活動中心となった。広い敷地を利用して、天気の良い日には1日何度となく庭の遊歩道を散歩したり、農園で季節の野菜を収穫している。ホーム内の行事や食事にも今まで以上に力を入れ、利用者の機能や下肢筋力維持に努めている。また、地域の方にも事業所の庭園の花々が癒しになるようにと季節に応じて植栽を植え替え、喜ばれている。</p> <p>【家族と利用者をつなぐケア記録】 開所以来、毎月利用者毎の日々のケア記録を報告書として家族に送付してきた。今年度は面会もできない状態が続く中、報告書を読むことで利用者の日頃の生活の様子やADLの状態が把握でき、家族の安心に繋がっている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき、やまぶき、あじさい棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記してある。その中に地域社会の一員として心豊かに生活を送れるように支援しますが入っています。毎月曜日の朝礼時に復唱しています。	開設時に作成した5項目の理念を名刺の裏に明記し、職員は理念を確認しながらケアに当たっている。また、地域に根付いた事業所として地域に認知されている。理念は各ユニットと応接室に掲示し、入居に当たり家族にも理念を説明して理解を頂いている。開所から17年目になり、勤務歴も長いベテラン職員が多く在籍していることから、理念は職員に浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍で地域の行事もなく、ホームの秋祭りも出来ませんでした。秋祭りは地域の皆さんの楽しみにされていたので残念です。外出も出来ず、地域のボランティアの方も来られませんでした。コロナが収束したらすぐに復活したいです。	開所時から地域との関係を大切にし、地域行事や保育園、学校との交流など地域に根差した活動をしてきたが、今年度は新型コロナ禍のためにすべて中断している。このような中でも事業所の地域貢献の一環として地域の方も楽しめるように事業所の敷地に新しい桜の木を植えたり、通りに向けてプランターを置き、ボランティアの手を借りて季節の花々を植え、近隣の方に喜ばれている。農園のボランティアも野菜作りや手入れに訪れ、今までと変わらない活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	川和小学校の認知症サポーターの講師、近隣の中学校の職場体験、夏休みのボランティア体験の受け入れをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は定期的に2か月に1度運営推進会議を行っていましたが今年ではできませんでした。2月に書面会議をしました。	通常は2か月ごとに家族、町内会役員、ボランティア代表、地域包括支援センター職員が参加をして事業所の活動や運営に対して理解や提言を頂いたり、参加者から地域の実情や情報を伺っていた。新型コロナの感染防止で会議ができなくなっている為、現在は書面で事業所の活動を参加者に報告している。また、メンバーから地域の高齢者に新型コロナの影響でADLが低下した方が増加していること等、困っていることや、今後に向けての提言などを書面で受け取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年ではできませんでしたが、今までは区役所主催の認知症フォーラムの参加、認知症サポーター養成講座の講師、認知症カフェ連の講師をすることで区役所とは連携しています。	都筑区役所とは認知症フォーラムで会の運営の手伝いや事例発表をして協力関係を築いてきた。また、認知症サポーター養成講座や認知症カフェ連合会の講師を管理者が担い、行政とは常に連携を取ってきたが、今年度はすべて中断している。行政から感染症予防のマスク等の物資の支給がある。グループホーム連絡会からは、書面会議の報告やコロナ禍での活動についてアンケートが来た。アンケート結果の報告から困難な時期に各ホームが工夫していることなどを知り、参考にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという前提でケアを行っている。玄関の施錠に関しては周囲の環境、認知症であるが故に必要な方法であることをご家族に入居時に説明してご理解頂いています。	「身体拘束0」をホームの指針とし、拘束のないホームづくりをしている。「身体拘束・虐待防止委員会」を3か月ごとに開催し、事例を検討し、その内容を報告書として回覧して職員が共有している。スピーチロックにつながる行動の制限や、声掛けなどは、職員同士その場で注意を促す関係ができています。入居時に向精神薬を使用していた方も、医師と相談をしながらホームでの生活に慣れて来ると減薬に取り組み、現在、薬を使用している方はいない。広い敷地に柵がないため防犯上施錠しているが、各居室の掃き出し窓からは自由にテラスに出る事ができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3か月毎に開催し虐待の防止に努めています。入居者の体の痣、傷等は発見したら即管理者に報告状況に応じ写真撮影し原因を究明しています。入居者の安全と人権擁護を守る努力をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の権利を尊重し守ることの大切さを理念とあわせて職員に伝えていきます。成年後見制度は利用されている方から学んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）をわかりやすく説明し、納得していただき同意を得て契約しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に家族会は設置していませんが、ご家族が面会に来られることが多い土日祝日は管理者、ホーム長は出勤するようにしており、ご家族と対応するようにしている。そこからケアプランに繋げて反映させています。	見学や入居時からホームの運営に家族の協力は不可欠と説明している。行事の時は会場の下準備から協力してくれる家族が多くいる。毎月利用者の日々の記録を報告書にして写真を添え送付している。面会ができない時期は、報告書が利用者の様子を知るツールとして活用され、家族から熱心に読んでいると報告を受けている。家族から、報告書の内容が毎月変わらない、もっと積極的に何かに取り組みさせて欲しいという意見もある。ホームの方針は「利用者に寄り添うことは家族にも寄り添うこと」であることから、家族の思いに配慮し、利用者の日常のエピソードや日々の家事のお手伝いや主体的に活動していることなどを報告書に書き加える事とした。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で出た問題点、改善案などはその場で解決し即実行している。各行事の実行委員による反省会では出されたことは来年度に反映されている。管理者は必ず出席している。	管理者や副理事長もケアに入る為、職員との距離も近く、意見も言いやすい。常勤の正社員比率が80%以上と高く、資格取得者も多く在籍している。例年退職する職員もほとんどいない。ケアの充実や職員間の連携など質の高い介護を目指している。職員の急病など、対応が必要になることを想定し、余裕のある職員配置を検討している。毎年個別面談を行い、職員のスキルに合わせて資格取得や研修の受講を勧めている。今年度は職員の意見から家族の面会は万全の感染症対策を取り、外のテラスやフェンス越しに行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績、貢献度などを公平に見極め、職員が向上心を持って安心して働けるよう努力している。介護職員処遇改善交付金は年3回支給しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員の受験時は勤務の便宜を図っています。社内研修はサ担当者会議の時に行っています。社外研修にも参加できるように考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川高齢者認知症グループホーム協議会に加入し複数連携事業にも参加している。昨年はコロナで交流の機会がなく残念でした。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に作って頂いたアセスメントをもとにしながらお話をします。入居初期は緊張や不安が多く、職員だけではなく、他入居者にも協力していただいて対応をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者様に対しての思い、ホームに対する希望など遠慮なく言える雰囲気を作り、ご家族が安心して頂ける環境を作っている。納得出来るまで見学相談をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の不安な気持ちを理解し、あせらずに根気よく対応をしています。帰宅願望、入浴拒否はあって当然と職員は理解して対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように暮らせることが理想。それぞれの得意分野を職員が把握し協働している。時にはトラブルも発生するが、それも日常生活と捉えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつでも、気軽に来て頂ける様にしている。家族と職員が協力しあうことが入居者様の安心と安定に繋がると思って援助している。ご家族に協力していただくこともケアと考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過ぎた環境を大切に、家族、友人の訪問や電話、外出はとても良いことだと思っています。	新型コロナ禍前は友人の訪問もあり、一緒に外出をしたり、テラスや居室で歓談をしていた。今は手紙や電話の取次ぎを支援している。生活習慣や嗜好に配慮して、10時や3時のお茶の時間には、好きな飲み物を用意し、コーヒーの砂糖やミルクの有無等細かな好みにも対応している。また、手帳に毎日メニューを書き留める習慣のある方には、手帳のページがなくなるころに新しい手帳を購入したり、絵の好きな方には塗り絵を用意している。仏壇を置いている方には、時折庭の花を摘んで供えるお手伝いをしている。入居期間が長い方は、ホームに出入りする医師や看護師、地域の商店の方達が馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人を職員が常に視野に入れてトラブルを未然に防ぐようにしている。お互いに一方通行の話でも楽しそうに話しているのを職員は温かく見守っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様は亡くなくなれましたがご家族はその後もボランティアとして来てくださっています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	帰宅願望、入浴拒否はあって当然と受け止め、ご本人の気持ちを大切にしながら対応している。困難な時はご家族に協力していただくこともあります。	入所時は要介護5でほとんど言葉を発しなかった方が、家族の定期訪問や職員の頻回な声掛け等で自分から声が出るようになり、不満も言われるようになった。さらに、誕生日会で他の入居者に代表してお祝いの言葉を述べたり、自身の誕生日には、お礼の言葉として「元気で長生きします」と話すまでになり、要介護度が3に改善した事例がある。意向の把握がしにくい方は、職員が日々近くで接している中で、その方の小さな変化なども見逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少時から現代までの状況をご家族と一緒にアセスメントを行い今後のケアに反映させている。お話しの中ででてくる分からない事はご家族にその都度お聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、気分、天気等を視野に入れながら過ごしていただいている。手伝いをさせていただくことで職員も助かっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体の状態や認知症の進行はその都度対応方法を職員で話し合いご家族に相談、報告しています。介護計画の目標が今より低下しないよう援助目標実施をチェックし日々の記録と連動しています。	毎月のワーカー会議で全員のケアカンファレンスを行い、モニタリングしている。ケアマネジャーが職員の意見を収集し、一月の生活の様子や変化をアセスメントシートに記録している。利用者の日々のケア記録を報告書として家族に送り、利用者の生活の様子や小さな変化を家族にも共有してもらっている。通常、短期目標3か月、長期目標は6か月で見直しをするが、変化があった際は医療情報なども反映させ随時見直している。日々のケア記録である「援助目標実施ファイル」にサービス内容を記号で表示してケア記録と連動させている。職員はケアプランを常に念頭に置き、ケアに当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎月報告書をご家族に送付しています。職員間の業務日誌、連絡ノートは出勤したらすぐに目を通し情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携、川和町町内会、婦人会、地元の消防団、保育園、小・中学校、学童保育、地域包括センターなど多くの協力を得て多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、絵手紙、音楽療法は今年度はできませんでしたがコロナが収束したら復活します。地域ボランティアの方達のご協力、近隣の方たち見守り助言などを頂きながら安全で豊かな暮らしが出来るよう努力いたします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	さとう内科クリニックの訪問診療に際しては全入居者のご家族から同意をいただいています。緊急時はDrから直接ご家族に電話をして説明をしてくれるのでご家族も安心されています。	以前からのかかりつけの精神科を受診している方が1名いる。利用者全員が毎月2回、協力医の訪問診療を受診している。耳鼻科は他の医療機関を受診するが、それ以外の治療等は協力医療機関で対応してくれる。協力医の訪問には看護師も同行しているため、顔なじみになり、相談や指示も受けやすい。24時間対応してくれる医療体制が整っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の看護師の方々には今はコロナの感染予防のための具体的なガウンの処理方法やゾーニングなど現場で丁寧に教えていただき心強いです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホーム長や管理者が同行し、カンファレンスにも参加して病院との連携をはかっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年の外部評価後でご指導いただき、GH都筑の丘の「重度化に関する指針」を作成しました。これからの課題として都筑の丘としての方針、方向を検討いたします。	開所から「生活の場」がホームの方針で、利用者が活動的な生活を送れることに主眼を置いてきた。そのため重度化により、ホームでの対応が困難となった際は、他の医療施設や介護施設に移り住む方が多かった。昨今の家族のニーズの変化に伴い、看取りの要望もあることや、入居期間が長くなっている方が増えていることを踏まえ、数年前から終末期対応の検討を重ねている。また、昨年度は家族の希望により初めてホームで看取りを実施している。昨年度の外部評価で終末期対応の指針がないことが課題になり、今年度「重度化に関する指針」を作成した。今後もホームでの暮らしを充実していく方針だが、できるだけ利用者や家族の希望には寄り添う意向である。職員は看護師から重度化対応の研修を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時応急手当、救命措置、AEDの使い方を消防署の指導を受けています。また、事故が発生した時はそれを教訓として事例検をしています。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	歩行できない入居者、避難訓練が理解できない入居者の避難方法が困難です。認知症であることで他所での避難生活は難しいと思っています。広い敷地を利用した避難生活を考えています。	今年度は夜間想定 of 訓練を2回実施している。事前に訓練の実施を利用者に伝えているため比較的スムーズな誘導になっている。以前は夜間に誤って非常ベルが鳴った際は音に気づかない方、寝ているので起きようと思わない方もいた。このことから頻回な訓練の必要性を感じ、次年度は回数を重ねることに加え、訓練方法も検討していく考えである。入居時に持参する家具は胸の高さ以下の物にする、テレビには転倒防止をするなどを家族に依頼している。災害用備蓄はすぐ近くの倉庫に地域の方に配分することも考慮して多めに備え、リストを作成して管理している。	近隣住民や町内会とは良好な関係があり、新型コロナ禍前までは避難訓練に地域の方の参加もありました。地域の一員としてどのような地域貢献ができるかを常に考えていることに鑑み、地域と防災時の相互協力協定を結び、更に地域と連携して行くことを期待します。
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の進行により本来のその人らしさが失われてしまうことがあります。その方の尊厳を大切に言葉かけや対応を心がけています。	理念の1項目に「個人の尊重とプライバシー保護」をかかげている。排泄時の声掛けが不適切だった際はすぐに職員間で声を掛け合い修正している。グループホームはサービス業と考えて接遇や個人情報保護を重視し、研修は毎年欠かさず実施している。個人情報を含むファイル類は施錠できる書庫で管理し、パソコンはすべてパスワードをかけている。各ユニットのケア記録など個人情報を入力するノートパソコンは、オフラインで使用している。オンラインで使用するパソコンは使用する職員を限定している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちが表現できない方の思いをくみ取り、表現出来るような雰囲気を作っている。散歩、余暇支援などの参加も自由で入浴拒否の時も無理じいはしません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先して一人ひとりのペースを大切にしている。一日のスケジュールは特に決めず、天気、入居者の希望を優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で決めています。できない方は職員が季節、色の組み合わせ等を配慮してコーディネートしています。行事の時はふさわしい服装を配慮しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器拭き、食器をしまう等一人一人の得意な事をしていただいています。外食や出前をとったりすると喜ばれます。献立がマンネリ化すると管理栄養士に伝えメニュー変更しています。	食事は委託の管理栄養士が立てた献立を職員が調理している。食材は地元の商店から1日分ずつ配達してもらっている。対面キッチンの調理の音や臭いは利用者の五感を刺激し、時間の意識付けにもなっている。敷地の農園で採れた旬の野菜や果実で漬物やジュースを作ることがホームの行事になっている。できるだけ自然の食材にこだわり、かつお節や昆布で出汁を取ったり、柚子のシロップをかけたおやつなど手作りの物を提供している。今年度は外食ができないことから出前のラーメンや寿司などを取り入れたり、敬老会では老舗料亭のお弁当を提供して喜ばれた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い献立に季節の旬の物を取り入れてもらっている。歯の状態、嚥下低下に合わせて対応しています。食べにくかったり、不評のメニューは栄養士に伝え変更しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士による口腔ケアを行っている。職員は、一人一人の口腔ケアの方法を指導していただき毎食後に職員が歯磨きの見守り、必要な介助をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを職員が把握してリハビリパンツを使用している方でもトイレで排尿ができるよう時間でトイレにお連れしている。トイレに行くと言う事が生活の中のリハビリと捉えています。	布製のパンツで自立してトイレで排泄する方が各ユニットに2～3名いる。夜間は睡眠を優先するが、一人ひとりにあった無理のない対応を心掛けている。現在、全介助の方やオムツ使用の方はいない。できるだけ散歩や家事などで身体を動かしてもらい、水分摂取を促し自然排便を心掛けている。厳しい場合は医師や看護師に相談して薬を使用することもある。トイレ清掃は時間を決めて行う他、汚れに気付いた際はすぐに対応して清潔に保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が不穏の原因の1番であり認知症の発症原因であることを職員は理解して観察記録をしています。1日2回の体操、ストレッチ、歩行をしています。かかりつけ医に相談しながら便秘薬の調整をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきの入浴ですが毎日入りたい方には時間調整しながら入っていただいています。拒否が強い方は無理じいはず職員間の連携プレーで気持ちよく入浴できるようにしています。	一日おきに週3回～4回、入浴している。ほとんどの方が夕方から夜にかけての入浴を習慣にしていたことや、一日の疲れを取るために午後3時から夜8時の間に入浴している。入浴を好まない方も一つの個性としてとらえ、声掛けを続けてタイミングを見計らったり、ふる場の掃除を手伝ってもらい、その続きで入浴をしてもらうなど臨機応変に対応している。冬場は庭の柚子で度々の柚子湯や、5月の節句には菖蒲湯を楽しんでいる。冬場は浴室、脱衣場ともにエアコンで温め、ヒートショックに備えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングでお手伝い、余暇支援、体操、散歩をすることが夜間の良眠に繋がります。疲れたら居室で適度に休んだり、昼寝をしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬時の誤薬の防止のための服薬管理表を職員二人で声を出し確認をし、与薬担当の職員が間違いなく与薬するまで目視確認をする。薬の変更時は連絡ノートに薬状書を貼り、申し送り、引き継ぎを徹底する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の得意分野、好きな事を職員が理解して發揮できるような場面を作っています。役割があることが自信になっています。さり気なく回想法を取り入れています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	この1年コロナウイルスの感染予防のため外出が出来なかったの で、元の生活に戻ったらご家族 と一緒に遠足、外食に出かけたい と思います。	新型コロナ禍以前は季節に応じて外出レクをしたり、 家族と一緒に外出を楽しむ方もいたが、今年度はすべ てできなくなっている。天気の良い日は広い敷地で1 日に何度も散歩を楽しんだり、農園の野菜や花壇の 花々を見ながら収穫や花摘みをしている。敷地内の通 路は敷石を敷き詰め歩行しやすくなった。花壇には季 節ごとに花を植え替え近隣の方にも楽しんでもらっ ている。利用者はテラスや花壇に置かれた動物の置物に 話しかけながら外気浴や散歩を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解 しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支援している	認知症であることによる、金銭 トラブル、妄想等の出現があり 金銭はお預かりしていません。 入居者には家族が預っているこ とをその都度お話ししていま す。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手 紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合はご家族の了解を得 た上で、掛けたいと言われた時 にホームから家族、友人に電話 をかけています。自分で描かれ た絵手紙を友人、家族に出して います。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温 度など）がないように配慮し、生活感や季節感 を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫 をしている	日当たりが良すぎて暑くなったり、 眩しくなるのでその都度 カーテン、ブラインドで調整を しています。CDの曲も季節、 その場にいる方の好みで選曲し ています。程良い明るさと音量 を意識しています。	床暖房が施されたフロアは天井が高く、テラスやベラ ンダに面した掃き出し窓からは庭の緑や花木などがよ く見える。対面キッチンに面した食堂に並んでリビング が配置され、利用者はソファでテレビを見たり、談 笑したりと好きな場所で寛いで過ごしている。クリ スマスにはプロの演奏家のコンサートを広めのリビング で行っている。共有空間は加湿器付き空気清浄機を置 き湿度50～60%、室温22度～23度に保っている。ま た、窓を開けた換気や、手すりやドアの取っ手などへ の感染症対策の消毒を以前から行っている。殆どの利 用者は日中はリビングや、天気の良い日にはテラスで 過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり顔が向きあわないように配置しています。夜はテレビを一緒に観ています。ソファが一人になれる空間にもなっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、お気に入りのカーテンなどそれぞれの入居者が工夫して生活しているが、認知症の進行により危険物と判断した場合はご家族に相談し撤去しています。	居室にはレースのカーテン、照明、エアコン、大きめのクローゼットが備えつけられ、家族や友人が来訪した際にはゆっくり寛いで歓談できる広さがある。利用者は使い慣れたチェストや鏡台、椅子などの家具類やテレビやカレンダー、時計などの生活用品を持ち込んでいる。仏壇を置いている方は庭の花を摘み供えている。居室の掃き出し窓から自由にテラスやベランダに出入りができ、利用者が万が一感染症に罹患した時は、職員は共有部分を通らずベランダから居室に出入りができる配置になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下とリビング、ダイニングを介して見守りができるように対面式キッチンにしてあります。食事の盛り付け、配膳、食器拭き、洗濯物干し、洗濯物畳みなどの特意なお手伝いをいただいています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 都筑の丘

作成日 令和3年6月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		地域の一員としてどのような地域貢献ができるかを常に考えていることに鑑み、地域と防災時の相互協力協定を結び、更に地域と連携していくことを期待します。	コロナ禍で地域とのかかわりが薄くなってしまった。コロナが終息したら新たに地域に貢献できること、地域と連携して防災時の取組みとして相互協力協定ができるように努力いたします。	コロナ禍で先が見えない状態なので、今は具体的な取組みができません。まずは、運営推進会議に自治会長や役員、地域の方に出席して頂き相談することから始めて行きたいと思っています。	1年位
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。